

教科の本質に迫る授業づくり【2020年度授業の基本方針の概略】

新潟大学附属新潟中学校

授業実践主題の趣旨

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い国内外の生活様式は大きく変容した。「3密」「新しい生活様式」ということばが我々の日常生活の中で定着し、制約の中で教職員は工夫を凝らして授業を行っている。当校においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかわり年度当初から以下のような状況である。

- ・ 来賓，保護者等を限定し，新入生のみの入学式の実施
- ・ 臨時休業や分散登校による授業時数の減少
- ・ すなやま完歩大会の中止，「旅」（修学旅行）の行き先変更，体育祭や演劇発表会の日程変更や無観客開催（制限付き開催），東京班別学習や職場体験学習の中止
- ・ 授業中の手だての制約（少人数学習グループによる対話を行わない等）
- ・ 部活動の自粛，大会の中止

このような状況下で，学校生活にメリハリをもたらす見せ場や節目がなくなり，様々な意味において不安な気持ちを抱えながら，生徒たちは制約の中，工夫して学校生活を送っている。しかしながら，臨時休業や分散登校による授業時数の減少で生徒の学びを保障しなければいけない状況の中で，教職員が一方的に話すだけであったり，問題を解いてこなすだけであったりする授業が懸念される。生徒も教職員も授業の中でワクワク感もない文字通り無味乾燥な授業になっていないか。我々の問いである。生徒たちの興味・関心を持続させるために実習や実験，グループ活動なども新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点から方法が限定される。このような状況だからこそ，教材や題材のもつ面白さを追究したり，教材提示や授業の組み立てを工夫したりすることが重要であると考え。該当教科の普遍的な価値を生徒たちが実感できるようにしていきたい。ここでいう「該当教科の普遍的な価値」を当校では「教科の本質」と考えている。

以上のことを踏まえて，2学期以降の教育実践を「教科の本質に迫る授業づくり」と題して授業実践を行うこととした。

実践内容

教科の本質を明らかにして，それに迫るための手立てを講じる。そして，その手だての有効性を検証する。